【R6.1.1能登半島地震】町民意見の分類･分析、対応策の検討　**※令和８年１０月更新**

No.	分類	件数
①	自助意識	117
②	情報伝達	105
③	避難所機能	49
④	共助活動	49
⑤	避難場所	46
⑥	行政機能	33
⑦	要支援者	29
⑧	避難道路	28
集計		**456**

※具体的施策の説明
「◎」既着手及び完了事業
「○」令和８年度着手事業
「△」未着手事業



①自助意識(117件)

・自分の身は自分で守らないといけないと痛感した
・大きな災害は起きない思い込みで生活していると実感した
・自分の住む場所の標高や浸水予想の各自の理解が必要
・何を持って避難すればよいか分からなかった
・家屋の耐震補強などの補助金について知りたい

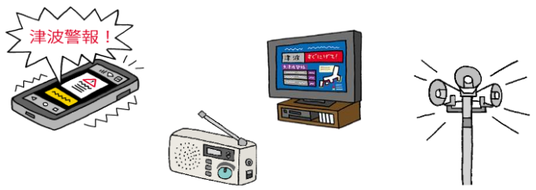
具体的施策
⇒広報紙などで防災意識の向上を図ります◎
⇒海抜高さ、想定浸水区域の掲示を進めます◎
⇒緊急避難用品や家具耐震対策への支援策を検討します○
⇒木造住宅耐震化の促進を図ります◎



②情報伝達(105件)

・津波の襲来状況や高さ、避難解除などが分からなかった
・避難すべき対象地区、避難できる場所について案内が必要
・車中で避難待機していたが何の情報も得られなかった
・舞鶴に居たため、高浜町の様子が分からなかった
・観光者など町外者は高台がどこか分からない
・原子力発電所の運転状況などを知りたい

具体的施策
⇒防災アプリで屋外･避難所･町外への情報配信を進めます◎
⇒防災アプリ内で防災や避難情報の集約化を進めます◎
⇒海岸監視用カメラを設置し津波情報を収集します◎
⇒緊急時の情報発信内容をテンプレート化します◎
⇒多様なメディアで配信できる仕組みを作ります◎



□避難所で必要とする物資【314件、複数回答可】

No.	%	必要物資
1	34%	飲料水（ペットボトル入り）
2	27%	毛布（季節的傾向、敷物兼用）
3	18%	食料（非常食、簡易食品）
4	15%	トイレ（常設、簡易トイレ、トイレットペーパー）
5	13%	空調暖房（季節的傾向、カイロ等簡易暖房、夏季は扇風機？）
6	8%	仕切り板（段ボール、パーティション、簡易テント）
7	8%	発電機（多用途使用、充電･照明･調理）
8	8%	敷物（マット類）
9	5%	ベッド（簡易休息、椅子替わり）
10	4%	照明（駐車場内、避難場所周辺）
他		車椅子、充電器、テレビ



③避難所機能(49件)

・毛布のほかストーブや携帯カイロがあるとよい
・車椅子がなく車から降りることができなかった
・トイレや駐車場のある公園等を避難場所に指定してはどうか
・避難施設のない駐車場にも毛布や防災物資が必要である
・原発事故との複合災害時は避難困難となりシェルターが必要

具体的施策
⇒緊急時避難場所に防災倉庫設置と物資備蓄を進めます△
⇒避難施設の備蓄物資内容の再検証を進めます◎
⇒拠点防災倉庫を整備し､必要物資を保管管理します○
⇒避難時に地域防災組織と連携する仕組みを作ります◎
⇒公園や球場などのトイレ洋式化や照明整備を進めます◎
（一部）



④共助活動(49件)

・改めて自主防災組織の意義や役割の大切さを痛感した
・高齢者等要支援者への声かけが不十分だった
・普段から避難訓練をしていないと具体的に行動できない
・自主防災組織で訓練していたのに動けなかった

具体的施策
⇒自主防災組織主体の避難訓練を実施します◎
⇒活動補助金で避難啓発品やチラシ配布を進めます◎
⇒地区ごとの地形や地域特性を共有します△



⑤避難場所(46件)

・津波時に避難できる高台が少ない（高浜地区・和田地区）
・高台避難場所にも休憩施設などの建物が必要
・民間施設と提携し避難所協力を求めてはどうか
・自家用車での避難が多く、駐車場がなく避難に支障がでる
・中央球場も避難駐車場として最初から開放して欲しい

具体的施策
⇒津波緊急避難場所の再設定を進めます◎
⇒避難場所の駐車規模やトイレ等の施設内容を明示します○
⇒避難ビルとして民間事業者の協力について協議します○
⇒緊急時避難場所の運営要領を更新します△



⑥行政機能(33件)

・平日だと役場からの情報も早いが休日だと情報が遅い
・避難誘導者がおらず車内でずっと待機していた
・現実的な避難訓練の実施をすべき
・消防団や防犯隊との連携がなかった

具体的施策
⇒防災アプリ職員参集機能で､効率的な人員配置を進めます◎
⇒職員初動や避難所開設マニュアルを整備します△
⇒津波避難を想定した職員初動訓練を実施します△



⑦要支援者(29件)

・高齢者や障がい者がいる場合や一人の場合、簡単に避難できない
・高齢者世帯の安否確認等をどのようにするか決める必要がある
近所の独居老人に声掛けして一緒に避難することができた
・高齢者避難は指定避難場所以外でも臨機応変に対応すべき

具体的施策
⇒要支援者避難計画、個別計画の作成を進めます◎
⇒近場の高台避難場所の確保を検討します○
⇒避難所における要支援者への配慮措置を検討します○



⑧避難道路(28件)

・自動車で避難したが、国道が混雑し避難場所まで行けなかった
・各区内で避難路線や経路を話し合うべき
・中央体育館への経路が文化会館口のみで、混雑し避難が遅れる
・安土山へは一本道で大勢が避難したため道路が混雑した
・内浦地区は地震の際、土砂崩れにより道路が寸断され孤立する

具体的施策
⇒津波緊急避難場所の再設定を進めます(再掲)◎
⇒道路の強靭化や複線化に向けた整備を進めます◎
⇒避難時防護対策について国・県と協議します○



◆能登半島地震の際の避難行動を元に立案した、３０項目の具体的施策のうち、１８事業に着手しており、令和８年度では７事業を進めます。
◆未着手の５事業は、整備環境が整ったのち実施します。（令和９年度以降）

防災安全課　TEL72-7701